

サロベツ原野だより Vol.13 -No.4

ホームページ URL <http://www.sarobetsu.or.jp>

E-mail: info@sarobetsu.or.jp

〒098-4122

北海道天塩郡豊富町
字豊富東 2 条 5 丁目

TEL (0162)82-3950

FAX (0162)73-0360



＜白銀世界の中でも厳しい冬を生き抜く生命がひしめき合っている。写真左：オジロワシ、右上：オオワシ、右下：キタキツネ＞

目 次

- 1. お知らせ……………P.1
- 2. 活動報告
 - (1) 稚咲内砂丘林再生……………P.2～3
吉原 努
 - (2) サロベツとサハリンのシマアオジ…P. 4～5
長谷部 真
- 3. コラム
 - (1) 私とサロベツ……………P.6
早野 佳織
 - (2) とよとみの民話……………P.6
豊富高校 郷土研究部編
- 4. 事務局からのお知らせ
 - (1) 湿原センター情報……………P.7
川崎 正大
 - (2) サロベツ四季の旅……………P.8
嶋崎 暁啓

1. お知らせ

スノーシューレンタル情報

今シーズンもいよいよ、スノーシューの季節を迎えます。当法人では湿原センターを拠点にガイドツアーのほか、用具レンタルも行っています。詳しいレンタル料は下記をご覧ください。ぜひ白銀の世界へお越しください！

※最新の積雪情報は湿原センターまでお問い合わせください。

○スノーシュー（男性・女性・子供用）

半日 500 円、1 日 1,000 円

○長靴（男性・女性用 23～28cm）

半日 100 円、1 日 200 円

○スキーウェア（男性・女性用 S～L サイズ）

上下セット 1,000 円



2. 活動報告

(1) 稚咲内砂丘林再生活動

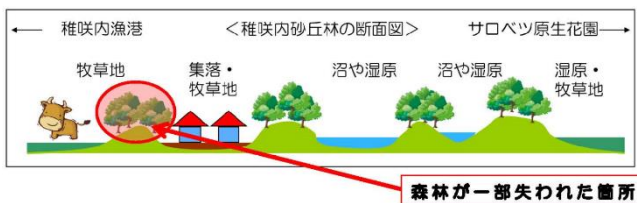
吉原 努（幌延町・NPO職員）

昨年11月2日に開催した稚咲内砂丘林再生活動「どんぐりーんの森づくり」は、今年度で13年目を迎えました。今回は今までの経緯も含めて改めて当活動について紹介させていただきます。



砂丘林再生活動の植栽地

利尻礼文サロベツ国立公園の稚咲内砂丘林は、特別保護地区に指定され、貴重な動植物の生息地となっています。しかし、稚咲内砂丘林の一部において、過去の放牧や長年の風雪の影響により約3haの土地が裸地化しました。裸地化したことにより国立公園の自然環境の悪化や景観の劣化、町有財産の消失、また風雪による生活道路の交通障害で住民生活や生業に支障をきたすなど、多くの弊害が生じるようになりました。そのため、平成17年度より地域住民、NPO法人、各行政機関等との協働による現地産ミズナラの苗木育成や植樹といった自然再生活動を展開し、砂丘林本来の姿を取り戻すこと目的として活動しています。



活動当初は現地産どんぐり 14,000 個を直播しましたが、いずれも育たず失敗に終わりました。そこで、平成20年度からは苗木になるまで育て、植樹する方法に転換すると順調に生育するようになりました。



保育所裏に造成した苗畑にどんぐりを植える（平成21年10月）



見事に成長した苗木（平成30年7月）

約3haの植樹地に、これまでに地域内外から延べ1,500人以上のボランティアの協力を得て、約7,000本のミズナラ苗木を植樹してきました。今年度も定期的な下草刈り作業、その他生育状況の調査などを地域の方々にご協力いただきながら実施することができました。



植栽地での下草刈り作業（令和元年7月）

また、教育機関との連携ということで、豊富中学校の総合学習や法政大学のスタディツアーの場としても活用され、環境保全活動に関わる次世代の担い手育成の場としても定着してきました。毎年の恒例行事となっている「どんぐりーんの森づくり」では、地域の方々や近隣市町村の方々をはじめ、稚咲内町内会、利尻礼文サロベツPVの

会、豊富町役場、豊富高校、宗谷総合振興局、稚内開発建設部、環境省、といった各関係機関の皆様、そして「サロベツでのびのび育てるママの会」、「なまら！！サロベツ∞クラブ」の子ども達など総勢 62 名の参加者となり、216 本の苗木を植樹することができました。



豊富中学校の総合学習（令和元年 7 月）



法政大学のスタディツアー（令和元年 9 月）

しかしながら、海からの強風や雑草の繁茂、土壌が乏しい砂地といった厳しい自然環境により、活着本数は約 4,000 本と全体の約 6 割程度となっています。そのため、今後も継続的な活動を進めるためにはいくつかの課題をクリアしなければなりません。例えば、道具や資材の不足、日常的な管理作業を担う地元の人材確保などが挙げられるため、助成金などを確保しながら活動を継続していきます。



植栽地での穴掘り作業（令和元年 10 月）



苗木を植栽するために掘った穴（令和元年 10 月）

また、これまでの植樹活動の成果（植樹面積等の確認）を把握・評価し、参加者と共有を行い、追加補植が必要な箇所の選定や、今後新たに植樹が必要な場所を検討するなど、次年度以降も効果的な活動ができるような取り組みを展開するほか、国立公園特別保護地区内で行われる全国的にも珍しい市民参加型活動としてPRし、一層多くの方々の参加協力を得て、地域内外から積極的に支えていただける森林再生の取り組みとして発展させていきます。さらに、環境学習の機会や植樹イベントを通して、若い世代の環境意識の向上や人材育成、都市と農村との交流促進、異世代間の交流を図り、過疎地域の活性化の一助にもなると考えています。



今年度のどんぐり緑の森づくりでの活動

(2) サロベツとサハリンのシマアオジ

長谷部 真（豊富町・NPO職員）

2019年のサロベツにおけるシマアオジの繁殖つがい数は14で、2018年の25つがいより大幅に減少しました（環境省・日本鳥の会事業、図1）。つがい数は2018年に引き続いての2年連続の減少です。2019年は餌運びが確認されましたが、さえずりはほとんど聞かれませんでした。木道周辺では繁殖期後半に姿が確認されなくなり、幼鳥の姿が確認されなかったため、繁殖状況の悪化が懸念されます。2019年は繁殖環境の改善のために、秋にシマアオジ繁殖地内にある繁殖に適さないササ群落の刈り取りを行いました。



図1 サロベツのシマアオジ

2019年7月に日ロ合同調査として、サハリンでシマアオジの繁殖状況調査を行いました（バードライフインターナショナル事業、図2）。調査の結果、サハリン中部のポロナイスク・ティモフスク、北部のバイカル湾でシマアオジを確認しました。（図3、図4）。繁殖地の環境耕作放棄地・中間湿原で、中間湿原はサロベツと似たような環境でした。バイカル湾では、約10つがいを確認し、餌運びも見られました。ティモフスクとバイカル湾では、1-2年前と比較して、生息確認されなくなった場所があったため、サロベツと同様に繁殖数は減少しているようです。そうは言ってもサハリンには同様の未確認の繁殖環境が無数にあるので、つがい数は相当残っているようです。



図2 サハリンのシマアオジ調査地



図3 バイカル湾のシマアオジ繁殖地



図4 ポロナイスクのシマアオジ

8月に中国の長春で開催された中国鳥学会に参加しました。ここではサロベツのシマアオジの現状について発表しました(図5)。中国にはシマアオジの研究者がおらず、研究者の間でもシマアオジはあまり知られていなかったもので、知ってもらうよい機会になったと思います。その後、北京の鳥類標識センターに立ち寄り、今後のシマアオジの調査や共同研究について話合いました。



図5 中国鳥学会(長春)でサロベツのシマアオジについて発表

10月にはシマアオジの国際的な活動を取りまとめているシンバ・チャン氏をサロベツ湿原センターに講師として招き、シマアオジの国際的な保全活動について発表してもらいました(図6)。



図6 サロベツ湿原センターで発表するシンバ氏

2020年はシマアオジの繁殖期に香港のシマアオジ関係者をサロベツに招き、香港や中国における現状や保全活動について発表してもらい、サロベツの現状を見てもらう予定です。10月には中国の昆明で開催される生物多様性会議に参加し、サロベツのシマアオジについて発表します。

2019年も中国でシマアオジの密猟が摘発され歯止めがかかっていません(図7)。サロベツのシマアオジを絶滅から守るために、これからも活動が続けて行きますので、ご協力とご支援のほどよろしくお願いします。



図7 中国で摘発されたシマアオジの密猟(2019年)

3. コラム

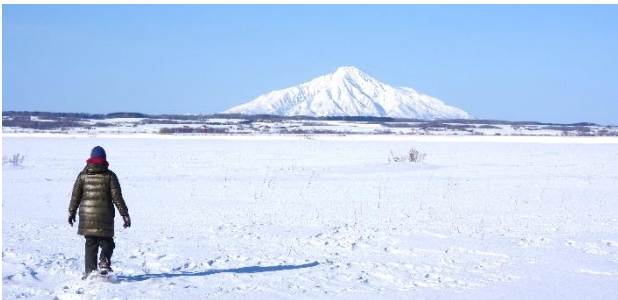
(1) ～私とサロベツ～ (リレーコラム)

早野 佳織(幌延町・NPO職員)

「あ、春の匂い。」雪どけ時期の夜、一緒に歩いていた人が嬉しそうに言いました。「ほんとだ、この、土が顔を出した匂いね。」と、サロベツで何度目かの冬を越したのだなあ、とふと思った瞬間でもありました。



家族の転勤で関東から来た私は、湿原センターで働くようになってサロベツの本当の面白さを知り、ダイナミックな自然をぐっと間近に日々感じるようになりました。小さな生命や奇跡のような瞬間、そして時に翻弄されながらその時の精一杯を生きていることを目の当たりにすると、すべては影響し合い、つながり、支え合って大きな命のらせんを描いていることを感じ、すべてが尊くも感じます。



夏の夜に家のベランダなど外へ出ると、ほんのり漂ってくる甘い緑の香り。地元の人に聞いても、当たり前すぎてよくわからないと言われるのですが、おそらく、森の木々、草花、青々とした牧草など、様々が混じり合い夜露に濡れ、ふわりと匂い立つ香りなのだろうと思っています。その、幾重にも和音となったようなきめ細やかで馥郁^{ふいく}とした香りは、サロベツの美しさの一つだと思います。

(2) とよとみの民話

第3集 音吉の杜

北海道豊富高等学校 郷土研究部

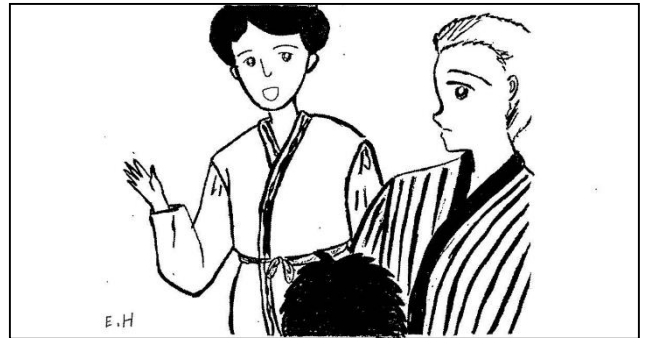
第2話 梅村さんの夢 (後編)

「そうだ、これからも2人で頑張っていこう。」2人は手を取り合って励まし合いながら、その後も兜沼の開墾に精を出しました。それでも熊は出るし、冬の寒さは厳しいので、梅村さんは何度もくじけそうになりました。せっかく開墾した畑が秋の洪水で流されてしまったこともありましたが、しかし自分で土地を開く夢をかなえるため、音吉さんと共に頑張りました。

そして苦労を重ねて4年後、兜沼での農耕に自信をもった梅村さんは岐阜から家族を呼び寄せました。

「一緒にやろう。今度は大丈夫だ。私は4年間ここにいて、兜沼の事はよく分かるようになってきた。」「しかしなあ…。せっかく畑を開墾しても、洪水で流されてしまうかもしれんなあ…。」

梅村さんは家族の言葉にがっかりしました。それを見て梅村さんの奥さんがこう言いました。



「みんな、この人の言葉を信じて兜沼へ行ってみましょう。どんな苦労があろうとも私はこの人と兜沼へ行くつもりです。」奥さんの言葉に押され、家族の人達も一緒に兜沼で開拓する気持ちになりました。そしてみんなで力を合わせ、再度兜沼の開拓に精を出すことになったのです。

こうした人達の努力があったからこそ、兜沼やそして現在の豊富町があるのです。

(第2話 梅村さんの夢 終わり)

4. 事務局からのお知らせ

(1) 湿原センター情報

川崎 正大(豊富町・NPO職員)

いよいよ冬本番。例年になく少雪の年明けとなりましたが、生き物たちにとっては辛く厳しい季節の幕開けです。春～秋は動植物を優しく包み込む“恵みの大地”が一変。まさに“試練の大地”と化す冬のサロベツ。どこまでも続く白銀世界はシンと静まり返ったように見えますが、その中でも林の木々やわずかに残った草地、空に目を向けると逞しく生き抜く生き物達の姿があります。

そこで、今回は湿原センターに限らず、冬のサロベツを生き抜く野鳥たちについて少し紹介いたします。

夏には色とりどりの花々が咲き誇る海岸草原に目を向けると、“冬の王者”オオワシ、オジロワシが悠然と飛翔するの姿を目にすることもできます。食べ物の乏しい冬、行き倒れたシカの亡骸などは彼らにとって大御馳走。キタキツネ等と繰り広げる手に汗握る攻防戦は圧巻の一言です。



エゾシカを食べるオジロワシ、稀にこのような場面に遭遇する事もある

このほか、ワシ以外にも今季は少雪の影響からか、冬の猛禽類ケアシノスリが例年より多く観察され、愛好家らの目を楽しませてくれました。また運が良いと“雪原のアイドル”ユキホオジロが僅かな植物の種子を食べる姿が見られるものもあります。



ユキホオジロ (左) とケアシノスリ (右) 兩種とも見かける機会はいくつかある

一見すると何も無いように見える雪原でも命の息吹がそこそこに溢れていることを実感します。

一方、センター周辺の林では木々の間をシマエナガやハシブトガラなどの小鳥たちが木々を飛び交う姿が目につきます。よく見るとハンノキの芽やそこにつく小さな虫、白樺から染み出した樹液などが目的のようです。冬の森でも懸命に命をつなぐ生き物たちの姿がそこにあるのです。



近年人気を博している“雪の妖精”シマエナガ

湿原センターの木道が新しくなります！

湿原センターの木道は昨年 11/20～本年 2/20 にかけて、木道の老朽化に伴う改修工事を実施中です。期間中は通行止めとなる為、お客様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力の程よろしくお願いいたします。今回の木道改修に併せて、各デッキの色あせた表示板なども新装されますので、雪解け以降は生まれ変わった木道で是非、サロベツを満喫してください！

なお、雪が十分に積もればスノーシューなどを用いて木道以外でも散策できます。詳細な積雪情報などはサロベツ湿原センター（電話：0162-82-3232）までお問い合わせください。



(2) サロベツ四季の旅

風の強いサロベツは、吹雪の痕跡がはっきりと刻み込まれる。夜通し吹き荒れていたような嵐が過ぎ去った後は、澄み切った空が広がり、美しく晴れ渡ることが多い。そんな時、湿原に出てみると、木の幹や枝の同じ方向に雪がびっしりと付いている。これを見ればどちらの方角から強い雪が吹き付けたのか、一目瞭然だ。日が射して温かくなると雪は少しとけ、自らの重みでグニャリと曲がり、白い蛇が木に巻き付いているように見える。



風は、湿原の微妙な起伏や、樹木などの後方に独特の模様を付ける。1つひとつの雪の粒が集まり、広がり、流れ、飛ばされて、やがて小さな山や谷、丘ができていく。それらを眺めているだけで、頭の中にビュービュー、ゴォーゴォーと音が聞こえてくるようだ。

もし風が全く吹かなければ、サロベツの雪原はのっぺりとした白い世界が広がっているだけだろう。しかし、風が吹くおかげで、風紋が青い影を創り、雪上に不思議な模様を描き出す。

いよいよスノーシューシーズンが始まる。雄大な風景や野生動物の足跡も魅力的だが、サロベツの強い風が創り出す表情豊かな雪のアートも、ぜひ楽しみながら散策を楽しんでいただきたい。

NPO法人サロベツ・エコ・ネットワークとは？

当法人は、サロベツ及び周辺の自然と地域を愛する人々が集い、自然環境の保全活動、調査研究活動及び環境教育活動を通して、自然と人間との共存の大切さを広く啓蒙し、併せて地域の発展、まちの活性化に寄与し、サロベツ及び周辺の豊かで美しい自然を次世代に引き継ぐことを目的として平成16年5月に設立されました。

活動の目的にご理解いただき、共に汗を流し、ご協力下さる会員を随時募集しております。あなたの参加が活動を支えます。どうぞご加入ください。

会員になっていただける方は事務局までご一報下さい。申込方法と会費の振込先をご連絡いたします。また、会の運営を支えるご寄附も随時受け付けております。(3千円以上のご寄附は各種税控除の対象となります。詳しくは事務局まで。)



<1月10日現在の会員数>

正会員 68 名 / 賛助会員 25 団体・11 個人
サポート会員 127 名 ⇒ 計 230 名・団体

※転勤などでお引越しをされた方は、住所変更のご連絡を事務局までご連絡ください。(連絡先は表紙の上部に表示しています)